

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、_は下方に変更)

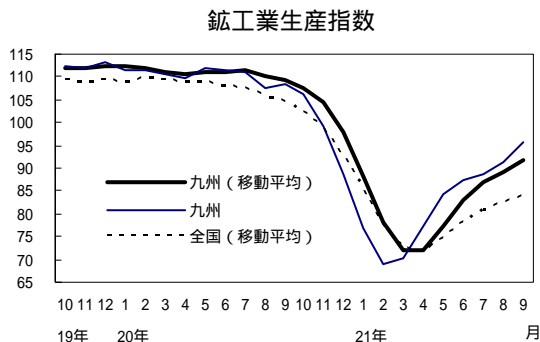
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年8月)	今回(平成21年11月)	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
雇用情勢	悪化	極めて厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やか	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

電子部品・デバイスは、引き続き在庫調整が進んだことから、モス型計数回路(ロジック)トランジスタ等を中心に大幅に上昇した。輸送機械は、在庫調整が進んだことや受注の増加から、普通乗用車を中心に上昇した。食料品・たばこは、おおむね横ばいとなっている。一般機械は、海外向け火力発電用途の一般用蒸気タービンや水管ボイラー、海外向け半導体製造装置等が大幅に増加した。化学は、医薬品は堅調な一方、スチレンモノマー、パラキシレン等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	15.6	54.2	20.9	17.2	18.2
輸送機械	15.4	36.3	12.2	12.8	30.5
食料品・たばこ	10.6	0.4	0.3	2.0	1.1
一般機械	10.6	18.8	33.5	36.0	13.8
化学	8.2	34.2	5.9	5.6	1.6
鉱工業	100.0	15.3	10.7	9.4	1.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

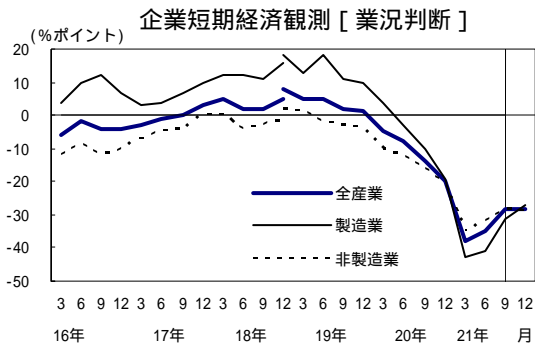
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

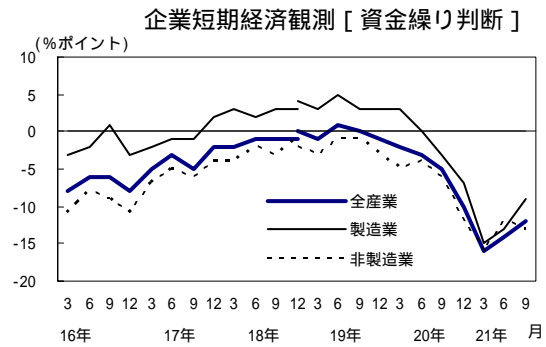
2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

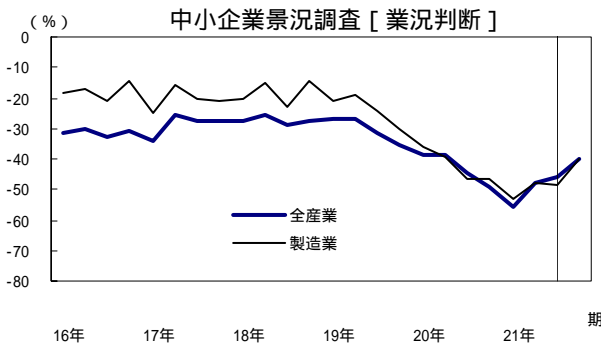
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「取引先に状況を聞くと、4月ごろに比べて徐々に回復しつつあるという会社がある一方、工場の稼働率の持ち直しの見通しが全く立っていないという会社も多い(経営コンサルタント)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

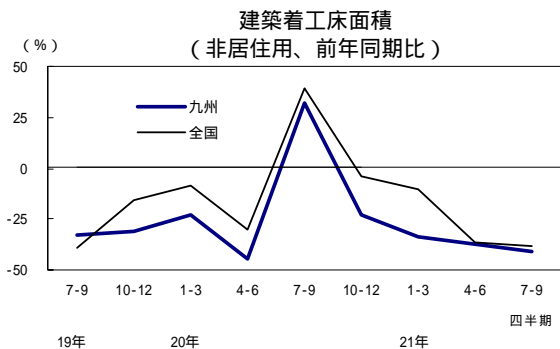
(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	20年度実績	21年度計画
全産業	7.1	14.6(2.9)
製造業	16.8	37.9(10.2)
非製造業	1.5	2.1(0.7)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

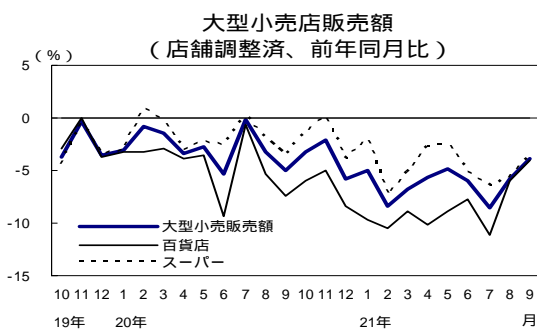
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、消費者の生活防衛意識が依然として高いことに加え、低温多雨などの天候不順による季節商材の不振、入店客数の減少などが重なったことなどから、前年を下回った。8月は、催事等の効果により一部動きが見られたものの、衣料品や高額商品の伸び悩みがあったことから、前年を下回った。9月は、大型連休期間中に動きがみられたものの、衣料品や高額商品の不振などから、前年を下回った。九州百貨店協会による10月の九州地区売上高は、前年同月比で7.7%減となっている。

スーパーは、飲食料品はプライベート・ブランド商品が堅調なほか、内食化の傾向も続いており、9月は前年比でプラスになったものの、全体としては、消費者の生活防衛意識が依然として高いことから衣料品などの不振が続いており、前年を下回った。

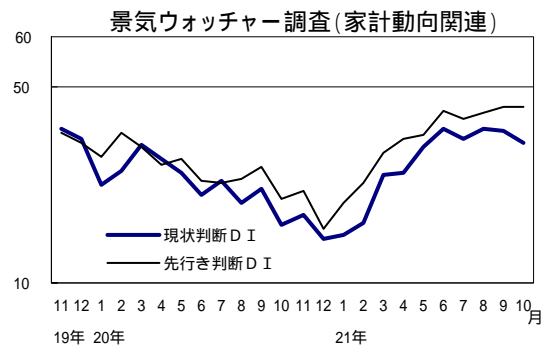
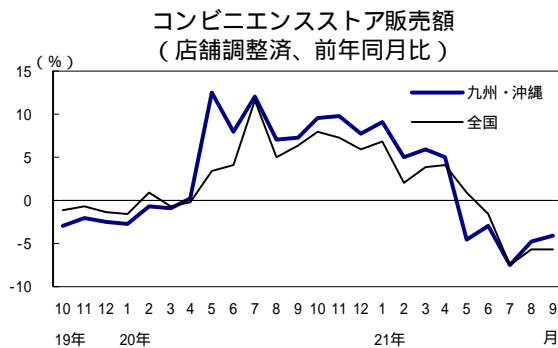
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「エコポイント対象となる地上デジタル放送対応テレビと冷蔵庫は好調だが、他の商品は相変わらず動きが悪い。新型OSも期待したほどではなかった(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.0	6.6	5.5	6.3
百貨店	6.7	9.6	8.9	7.7
スーパー	1.9	4.6	3.4	5.5
乗用車	11.4	19.1	14.3	2.7
景気ウォッチャー	21.5	24.8	37.2	40.4

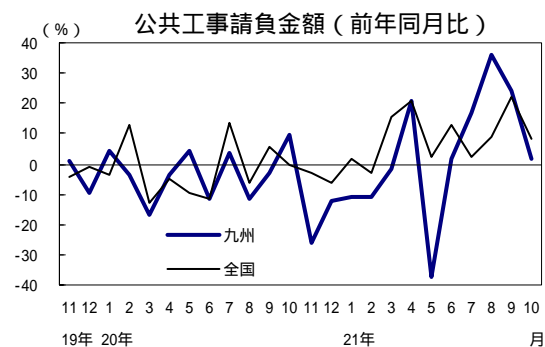
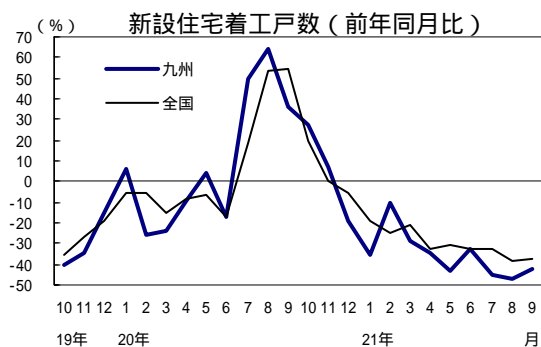
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

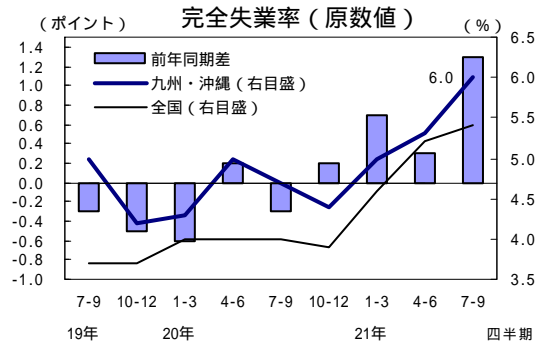
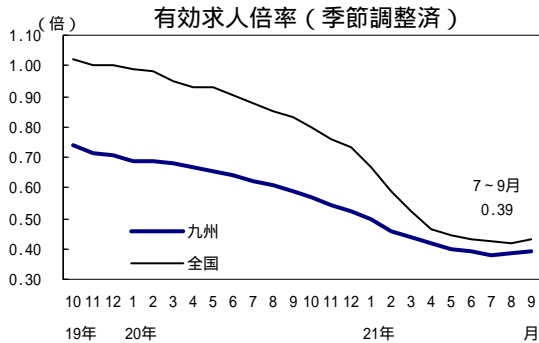
貸家、分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。

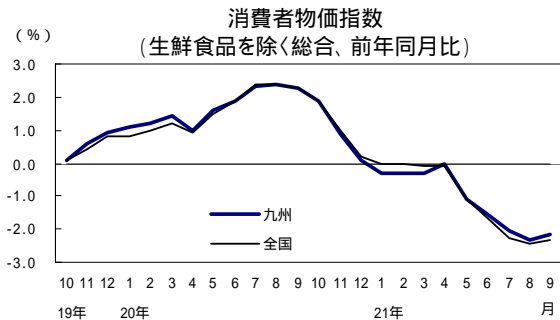


景気ウォッチャー調査（9月）[雇用関連（現状）]
「求人広告の引き合いが悪く、求職者側もややあきらめムードがある（新聞社〔求人広告〕）」
など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。
(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数	364	266	283	242	78
(前年比)	17.4	15.0	19.6	32.2	39.5
負債総額	1,916	1,108	1,028	476	106
(前年比)	25.8	39.4	39.9	69.8	57.5



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・当地が温泉地ということもあり、高速道路料金引下げの影響で休日の売上は大幅に伸びているが、平日の売上は激減している。トータルでは売上は減少しており、訪問客の節約志向の影響を受けている部分もある（観光型旅館）

<先行き>

- ・一部年末年始の海外旅行等で早期の予約が入っているが、全体的に弱い。安い価格の商品ばかりが売れている（旅行代理店）

